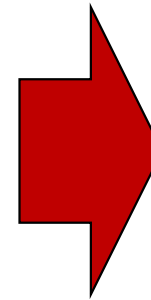
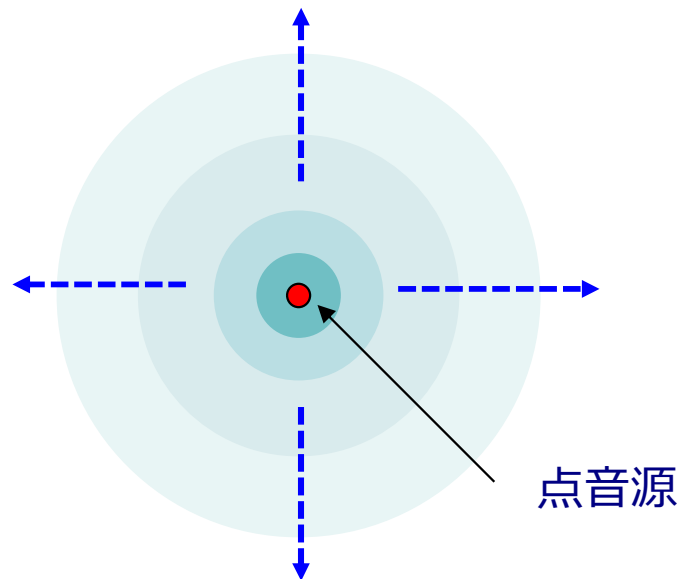


ESTECH 音響加振音源

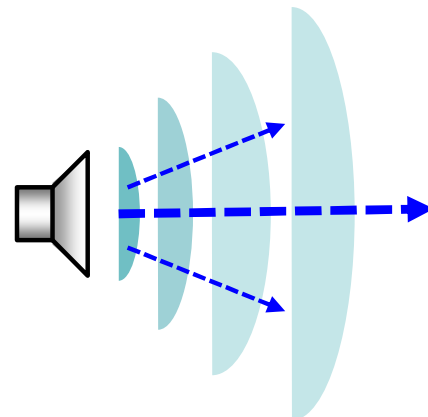
EDS150-50-002

- 点音源を模擬した音響加振装置

- 点音源を模擬するためには、360°方向に均一に音波が広がるような音源が必要
- スピーカを12面体状に配置し、点音源とほぼ同じ状態を実現



12面体にスピーカを配置



1つのスピーカだと高周波数域で平面波に近い伝播になる

音響加振音源の用途

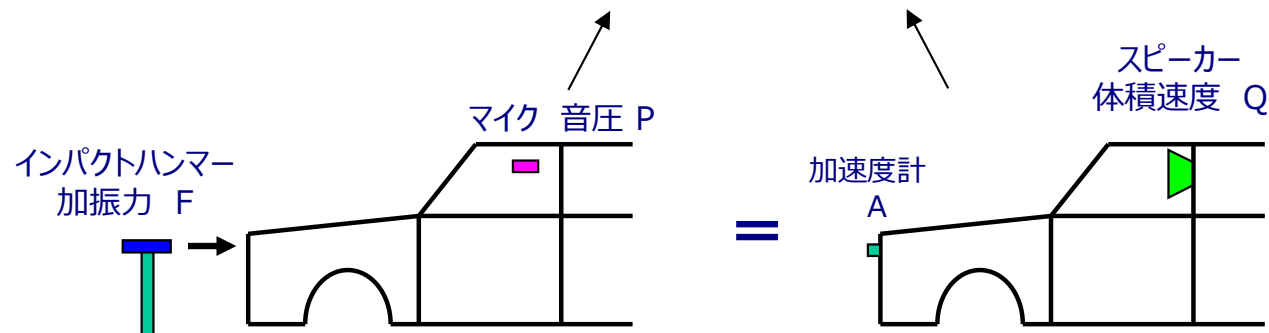
● 音響伝達関数の測定

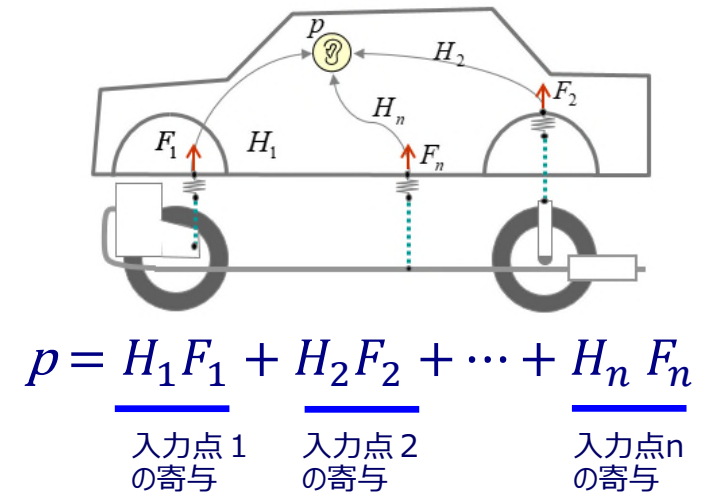
- 音の伝達経路（寄与）分析するための音響加振実験に利用
 - ✓ 音響伝達関数（ $H_1 \sim H_n$ ）と加振源の入力が分かれば、音の各成分寄与が分かる

→ **対策方針が立てられる**

- 相反性を利用した音響加振実験（スピーカ試験）により、実験効率を向上

$$\text{音響伝達関数} = \frac{P(\text{N/m}^2)}{F(\text{N})} = \frac{A(\text{m/s}^2)}{Q'(\text{m}^3/\text{s}^2)}$$





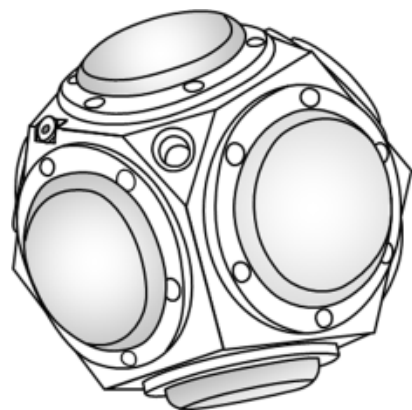
The diagram shows a car with multiple input points for acoustic transfer function measurement. The input points are labeled $F_1, F_2, \dots, F_n$ and the corresponding transfer functions are labeled $H_1, H_2, \dots, H_n$. The resulting sound pressure p is shown at the driver's ear position.

$$p = \underbrace{H_1 F_1}_{\text{入力点 1 の寄与}} + \underbrace{H_2 F_2}_{\text{入力点 2 の寄与}} + \dots + \underbrace{H_n F_n}_{\text{入力点 n の寄与}}$$

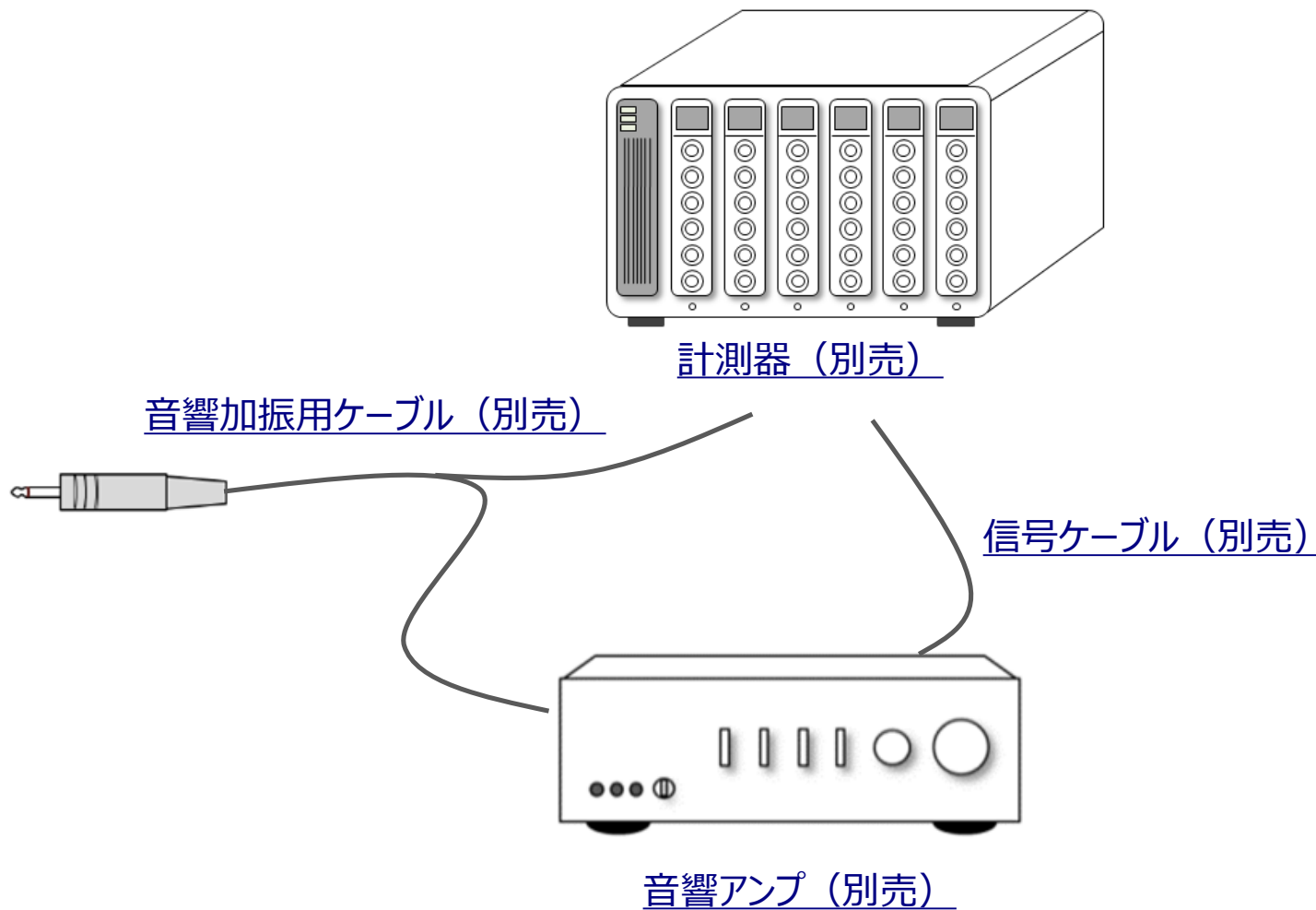
車室内耳位置に音源を設置して実験



- システム構成例



ESTECH 音響加振音源



販売価格 (2022/11/1時点)

- エステック音響加振音源

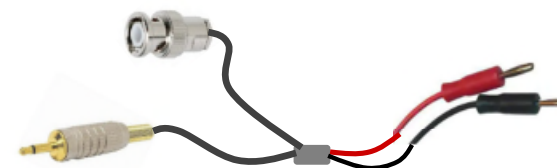
- EDS150-50-002
- 販売価格 : ￥800,000



エステック音響加振音源

- 音響加振音源用ケーブル（仕入商品）

- EDS-OP-CA1 二股分岐ケーブル
 - ✓ エステック販売価格 ￥62,000
- EDS-OP-CA2 分圧ケーブル付き
 - ✓ エステック販売価格 ￥38,000



二股分岐ケーブル



分圧ケーブル（電圧降下用）

- アンプ（仕入商品）

- YAMAHA A-S801
 - ✓ 120W+120W/6Ω
- エステック販売価格 : ￥200,000



音響アンプ

お問い合わせ先



- 本製品のお問い合わせは下記にお願い致します。

株式会社エステック

技術戦略部 実験プロダクトグループ

Tel : 045-661-1661

E-mail : g-order@group.estech.co.jp